

■安芸校一 土木工学者。専門分野で名著「河相論」はじめ、「日本の資源問題」、経済安定本部ほか、幅広く活動した。

あきこういち

教科書疑獄・1902＝

父の赴任地新潟市で、内務省技師安芸杏一の長男に生まれる。父は、蘇我赤兄を祖とし、土佐の豪族となるも、長宗我部氏に攻められ、四散した安芸氏のうち、代々阿波の藩医をつとめることになった分家を直接の祖とし、母も会津藩学者秋月氏の出で、両親とも維新に際して官軍に敗れた雄藩藩士の末裔という環境のなか、信濃川河口改修工事主任をつとめる父の薫陶を受けて育ち、

日露戦争終・1905＝3歳：

韓国反日暴動1907＝5歳：この年、父が築港現場視察のため、欧米を歴訪。

大逆事件判決1911＝9歳：この年までに、妹と4人の弟が誕生。

明治天皇没・1912＝10歳：

大正政変・・・1913＝11歳：改修工事を終えた父が内務省本省に異動になったのに従い、一家で上京し、転校。

21ヶ条要求・1915＝13歳：府立四中(現戸山高校)に進学。盲腸炎に罹るも手術で全快。漢学者深井鑑一郎校長の方針で、厳しいスパルタ教育を受けるなか、秀才で級長を続け、父にあちこちに連れられて見聞、スポーツも万能で、

ロシア革命・1917＝15歳：水戸藩秘伝の泳法を披露して喝采を浴び、また、水練部遊泳法を作成、

本格政党内閣1918＝16歳：サッカーボールを与えられて夢中になる。

ベルサイユ条約・1919＝17歳：1年早く卒業し、思い出多い地に新設された新潟高校理科甲類に進学。父の四国出張に従い、祖先の墓詣。

大暴落・・・1920＝18歳：

原敬首相暗殺1921＝19歳：

今度は、八田喜一校長の方針で、徹底した自由主義的教育を受けながら、父の関わる現場等も視察、山登り・スキーを楽しみ、原書で仏独の哲学書を読み、ベルグソンに傾倒するなどして、

水平社結成・1922＝20歳：この年、父が横浜土木出張所初代所長となって、一家で移住。

関東大震災・1923＝21歳：卒業。理科系ながら、東京帝大文学部英文科に進学するが、関東大震災で家族と苛酷な体験をすると、

護憲三派圧勝1924＝22歳：東京帝大工学部土木工学科を受験して合格し、水工学担当の物部長徳に影響を受け、

この間、通学の東海道線中で、女子高等師範付属女学校の生徒小島富美子と出会い、恋愛、

日本時代始・1926＝24歳：卒論「信濃川の河道改良と舟航」を書いて、卒業し、内務省に入省、東京土木出張所内務工手から、

金融恐慌・・・1927＝25歳：測量係勤務を経て、鬼怒川改修事務所へ赴任。前年に計画を策定した青山士に会い、以後、敬愛。

この間、牧師ビンフォールド夫妻との交流し、無教会派クリスチャンの青山にも紹介、

世界恐慌・・・1929＝27歳：富美子の卒業を待って、結婚。内務省技師に昇格し、

海軍軍縮条約1930＝28歳：長男が誕生。*内務省鬼怒川改修事務所所属鎌庭工場主任となる。処女作「流量測定」刊行。

満州事変・・・1931＝29歳：次男が誕生。

帝人疑獄事件1934＝32歳：内務省富士川改修事務所主任に異動すると、

芥川直木賞始1935＝33歳：大洪水が発生、その後の変化を綿密に調査して、多大の知見を得る。

二二六事件・1936＝34歳：長女が誕生。

日中戦争始・1937＝35歳：内務省土木試験所(現土木研究所)兼務となる。

健保+総動員1938＝36歳：この間、富士川河川史に強い関心を示し、甲州流古文書の解読を進める。

第二次大戦始1939＝37歳：内務省土木局に異動。敬愛する先輩宮本武之輔に頼まれて、興亜院の技師を兼務、同行して中国に渡り、

黄河堤防修復工事を監督して、自然観への衝撃を受け、

日米開戦・・・1941＝39歳：宮本武之輔が急逝して喪失感、この年から、独自の論文「河相論」を連載し、

・・・1942＝40歳：この年、愛弟が戦死。土木学会賞受賞。興亜院が合併されて発足した大東亜省技師。

この間、国土建設技術新書の4冊を受け持ち、黄河に関する記述やパールバック「大地」引用で代表作に、

創価学会検挙1943＝41歳：「河相論」で工学博士。

年金+総武装1944＝42歳：「河相論」刊行。東京帝国大学第二学部教授を兼任。

敗戦・・・1945＝43歳：敗戦。大来佐武郎の要請に応じて、{戦後問題研究会}のメンバーとなり、

新憲法公布・1946＝44歳：内務省土木試験所所長となる。来日したニューディーラーのアクカーマンと親交、その推挙もあって、

新憲法施行・1947＝45歳：GHQの命に、戦前差別されてきた技術官僚も応え、内務省が解体され、

極東裁判判決・1948＝46歳：建設省土木研究所として再発足させた後、*経済安定本部資源委員会の初代事務局長に引き抜かれ、

三大事件・1949＝47歳：必要性を訴え、自ら編集責任者となって、「水理公式集」を謄写版刷りで刊行。日本学術会議初代会員。

朝鮮戦争始・1950＝48歳：「河と技術」を刊行。招請を受け、初めて渡米し、大河川流域を中心に視察。

独立回復・・・1951＝49歳：経済安定本部資源調査会副会長に昇格。会長を介し、首相宛に「水文学資料の欠陥に関する報告」を提出。日本大学理工学部教授を兼任。「河相論」再版。

メーデー事件・1952＝50歳：「日本の資源問題」で毎日出版文化賞受賞。岩波新書「水害の日本」、「河川工学序説」刊行。アメリカ再訪。

自衛隊発足・1954＝52歳：「河は造られていく」刊行。東京大学生産技術研究所教授(兼任)。

55年体制始・1955＝53歳：スイスでの第1回原子力平和利用国際会議に日本政府代表として出席。共著で「原子力とエネルギー」刊。

国連加盟・・・1956＝54歳：科学技術庁初代科学審議官。

インスタントメン・1958＝56歳：日本で開催された国際治水会議の議長をつとめる。小学校高学年の社会科用図書を刊行。

美智子妃・・・1959＝57歳：社団法人水温調査会会長。

安保闘争・・・1960＝58歳：社団法人国際技術協力協会会長。以後3年間、国連アジア極東経済委員会(ECAFE)治水水資源開発局長。

タイタイ病始・1961＝59歳：バンコク赴任中に、父が死去。

TV宇宙中継始1963＝61歳：この年、青山士が死去。*帰国とともに、科学技術庁を退官。

東京リビウツ1964＝62歳：母も死去。財団法人資源科学研究所理事長。関東学院大学工学部教授。

大学紛争始・1965＝63歳：再び、日本大学理工学部教授を兼任。

以降、多くの国際会議に出席し、また低開発国の相談に乗るべく、毎年、長期に海外出張。

全共闘・・・1969＝67歳：「わが道」刊行。東南アジア諸国のルポルタージュ「東南アジアの経済」を刊行。

大阪万博・・・1970＝68歳：拓殖大学の「アジア開発論」講義を担当。

日中国交回復1972＝70歳：勲二等旭日重光章。

石油ショック1973＝71歳：日本河川開発調査会会長。

角栄金脈辞任1974＝72歳：

クアンプール事件1975＝73歳：土木学会功績賞。

成田衝突・・・1978＝76歳：河川関係者第一回訪中団団長として、北京訪問。

革新大敗北・1979＝77歳：日本大学農獣医学部に招かれて講演、なお、問題提起を続け、

中曽根内閣・1982＝80歳：

ディズニースト・1983＝81歳：「川に想う～世界の河川」を刊行し、

・・・1984＝82歳：*入念な準備をして、関東学院大学での最終講義を行い、

ジャンボ機墜落1985＝83歳：脳梗塞のため、没した。

高橋哲郎「月光は大河に映えて」、